

令和8年度 学力向上指導改善プラン

学校教育目標 人間尊重を基盤とし、確かな学力と豊かな心でたくましく生きぬく生徒の育成

目指す子どもの姿

- ・自主: 自ら考え、計画を立てて自分の力で成し遂げる生徒
- ・創造: 探究に富み、豊かな発想で困難に立ち向かえる生徒
- ・根気: 健康で明るく、どんなことにも粘り強く努力を続ける生徒

変容を目指す資質・能力

- a 知識及び技能 b 思考力、判断力、表現力等 c 学びにむかう力、人間性等 d 情報活用能力
- e 課題解決能力 f 学び続ける姿勢 g コミュニケーション能力

三田市立狭間中学校
 学校長 福岡孝太郎
 研究主体【 研究推進委員会 】

前年度			継続性	4月		2~3月		
学力向上に向けた重点的な目標	年度末評価 (前年度の成果と次年度に向けた課題等)	評価		学力向上に向けた重点的な目標 (変容を目指す資質・能力)	成果となる目標 (指標となる数値等)	具体的な行動目標 (成果目標達成のための具体的な手立て等)	教員点検	年度末評価 (今年度の成果と来年度に向けた課題等)
・課題解決に必要な、「複数」の情報を「関連付け」力の育成 (b・d・e)	・国語・数学の「思考・判断・表現」に関する平均正答率は前年度に比べ上回ることができた。 ・各教科で予想や仮説を立て、検証することを資料を用いて行う場面を多くする必要がある。	B	新規	学習評価を授業改善に生かす学力向上の工夫 (a・b・c・d・e)	・「生徒にとって、わかりやすい授業の構築」および「保護者へ教科指導の取り組み発信と周知」を意識して、学校評価アンケートにおける学力向上の実感(「できた」)を具体的に振り返ることのできる生徒が全校生の85%以上になる。保護者は80%以上になる。	・授業目標を明確に提示し、振り返りやテスト結果などを指導に生かすことを目指した授業開発研究を行う。 ・教科間の連携(カリキュラムマネジメント、精選)を意識した取り組みを行う。 ・基礎の習得をもとに複数の情報を関連付け、問題発見や探究活動のある学びの研究を行う。		
・問題解決型の授業構成を中心とした探求の過程を大切に授業改善 (b・g)	・質問調査の「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の肯定的評価が全国平均を下回った。 ・学習者同士の意見を反映させる場面を授業展開に入れたり、授業者の問いを学習者が解決していく過程を組み入れながら授業を行う必要がある。	B		新規	インクルーシブの視点を取り入れた教育活動の充実 (c・d・e・g)	・オクリンクプラスを活用した配信により、年間を通して全生徒への学習支援を行う。 ・全国学力学習状況調査の質問調査で「1,2年生のときの学習の中で、タブレットなどのICT機器を活用することについて。」(1)自分のペースで理解しながら学習を進めることができる。」の肯定的評価が80%以上。	・考査前に学習計画表を作成させることや各教科の課題範囲を少なくし細かに提出させることにより、見通しを持った学習計画や学習習慣の定着を図る。 ・朝学習および各教科でミライシートを活用した個に応じた学習を行う。 ・ICT機器を用いた授業の振り返りや調べた情報の共有を行うことで、一定の学習理解を図る。 ・教育活動に関する配信をICT機器を用いて積極的に行う。	
・ICTを最大限活用し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 (c・d・e・f)	・教員の具体的な取り組みとして、ICT機器を用いて学習に対する課題を提出させたり、意見の共有や課題解決の手だてとして活用することができた。 ・特に音楽や体育において、学習者の動きや表現をICT機器アプリを用いて録音・録画し、学習者がより主体的に取り組めるよう工夫した学習を行うことができた。	A	新規		ICTを活用した、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 (c・d・e・f)	・全国学力学習状況調査における以下の質問項目で肯定評価が75%以上。 ①「自分がICT機器で文章を作成できる」 ②「自分がインターネットを使って情報を収集できる」 ③「自分がICT機器を使って情報を整理することができる」 ④「自分がICT機器で学校のプレゼンテーションを作成できる」	・各教科でICT機器を用いて、学習課題を解決したりパフォーマンス課題等を設定し、自分の考えを深める、他者と意見を共有する、新たな考えを知るといった活動を取り入れる。 ・実技教科において学習者の動きや表現をICT機器を用いて録音・録画し、学習成果をまとめる活動の拡充を図る。	
・家庭における学習習慣の確立 (c・f)	①「学校の授業時間以外の平日の学習時間」が1日あたり2時間以上という全国平均の回答は30.8ポイント対し、本校は35.6ポイントであり、全国平均を上回った。 ②「土曜日や日曜日など学校が休みの日の学習時間」が1日あたり2時間以上という全国平均の回答は13.8ポイント対し、本校は15.3ポイントであり、全国平均を上回った。	B		新規	家庭における学習習慣の確立 (c・f)	・全国学力学習状況調査における質問調査において以下の2点が全国平均以上になる。 ①「学校の授業時間以外の平日の学習時間」が1日あたり2時間以上という回答。 ②「土曜日や日曜日など学校が休みの日の学習時間」が1日あたり2時間以上という回答。	・各教科で学習評価や課題の取り組み方を示し、計画的に家庭学習の課題を実施させる。 ・ドリルパークにおける課題配信など、生徒の習熟度に応じた課題を設定し、個に応じた家庭学習の充実を図る。 ・各教員の説明およびオクリンク配信、掲示物を利用して生徒が見通しをもって取り組むことのできる課題を計画する。	
・基礎学力やVUCAな時代を生きていくために必要な学力向上に向けた小・中連携の推進 (a・b・d)	・昨年度中学校区の分析に関して、文章の読み取りが課題となった。国語では「読むこと」が前年度以上の正答率となった。数学では「説明する」ことが課題として挙げられ、資料や式を用いて説明する力が前年度と同様の水準であった。 ・中学校区での分析を、各授業者が意識して取り組む必要がある。	B	新規		中学校区における学力向上および連携の推進 (a・b・c)	①年1回の中学校区合同研修会の開催と、学力向上に向けた小中連絡会を年2回以上開催する。 ②幼稚園を含めた中学校区内の授業参観において、各教員が参加する。 ③昨年度の全国学力・学習状況調査の各教科における課題となった国語・数学の文章問題正答率を、今年度は前年度以上にする。	・中学校区の幼稚園や小学校への授業参観に中学校教員が参加し、園児・児童の実態理解・把握する。 ・中学校オープンスクールや授業参観への案内を校区の小学校や幼稚園に行い、小学校や幼稚園職員の参加を促す。 ・トライやる・ウィークによる幼稚園および小学校訪問による連携を強める。 ・今年度の全国学力学習状況調査の結果からの取り組みを共有し、成果と課題を明らかにする。	
				新規	教職員の資質・能力向上	・校内における研究授業を年二回以上実施し、授業改善に生かす。 ・教員の相互参観期間を設け、授業目標を明確化した授業を一回以上校内で公開し、他教員の授業を一回以上参観する。 ・教員資質向上を目指し、校内夏季研修に参加する。	・生徒指導や特別支援教育、道徳・人権教育などの研修を行うことで生徒理解・把握に努め、生徒がより充実した学校生活を過ごせるための研鑽を積み重ねる。 ・防災研修や給食指導および救命救急の研修を行うことで、生徒の安心・安全な学校教育の強化を図る。	

○「教員点検」は教員対象に実施した自己点検調査結果(1~5の5段階評価)の平均値
 ○「評価」は年間の取組みについて、4段階で評価
 A・・・十分に達成 B・・・おおよそ達成
 C・・・達成が不十分 D・・・ほとんど達成できず